

ASEAN グローバル人材育成プログラムに参加して

漆 山 亜裕貴
Ayuki URUSHIYAMA
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナム、ハノイにて企業見学、企業研修、ハノイ工業大生とのPBL、およびシンガポールにて南洋理工大学訪問、若手ビジネスパーソンとの交流、築野様、加藤様の講演を含むグローバル人材育成プログラムに参加した。具体的な日程を表1に示す。本稿では、若手ビジネスパーソン・加藤さんの講演で感じたこと、プログラム全体を通して得たものと、それを踏まえた今後の目標について記載する。

表1 プログラムの日程

8月29日	ハノイ着、オリエンテーション
8月30日	企業見学、企業研修
8月31日 9月1日	ハノイ工業大生とのPBL
9月3日	シンガポール着
9月4日	南洋理工大学訪問
9月5日	講演会・交流会
9月7日	帰国

2. 参加目的

今回私がこのプログラムに参加した目的は、グローバルな社会になりつつある今、世界中でグローバルな人材が求められている。そのため、自分の英語力を確かめることと共に、私は将来海外で働きたいと考えており、海外で働いている日本人の方々がどのように仕事をこなしているのかを知ることで具体的な将来のビジョンを少しでも描けたらいいなと考えたために参加した。

3. PBL について

8月30日と9月1日にベトナムでハノイ工業大生2人と龍谷大学生5人の計7人で「ユニクロの製品をベトナムでどのように工夫すれば売れるのか」という題のPBLに取り組んだ。初めはまだ同じグループの龍谷大学生とも少し距離を感じていた。私はグループのリーダーだったため日本語の通じないベトナム人学生と積極的にコミュニケーションを図りPBLを進めた。フィールドワークで使用するアンケート用紙やそのアンケートを集計し、まとめる作業をしているうちにグループ内では様々な意見が出てきて本当にチーム一丸となってPBLを進めることができていて実感できた。時間制限があり最後の方は駆け足になったが、グループ全員のがんばりで上手く発表用の画用紙にまとめることができた。発表し終えた時、達成感で心が満たされるほど嬉しかった。このPBLを通して協調性やリーダーシップ、臨機応変に対応する力を付けることができて良かった。

4. 若手ビジネスパーソン交流会

9月5日にシンガポールにて、築野さん、寺島さん、芝崎さん、大野さんとの交流会が行われた。一人のビジネスパーソンにつき学生8名が加わり20分×4名の交流を行った。初めはとても緊張しながら質問や会話を交わしていたがだんだんと緊張が解けていきとても楽しく会話を交わすようになった。その中で特に芝崎さん、大野さんとの交流が印象に残っている。芝崎さんは龍谷大学の卒業生ということもあってとても親近感が湧いた。元々は歌手を目指していたそうですが大学卒業後に1年間海外留学した後に日本で数年働きスキルアップしてシンガポールで働いたそうです。やはり大学を卒業してすぐに海外で働くことは難しく、外国企業では日本の資格などは通用しないので日本で経験を積んでスキルアップした後に海外で働くという流れが一番良いというお話を聞いた。もう一方の大野さんは4名のう

ちの最後の交流ということで、かなり緊張も解けて自然に会話弾んだ。その中で日本と外国の企業について一番の違いをお聞きしたところ、それはお給料の算出の違いだった。日本の企業では年功序列のシステムが多いが、外国の企業のほとんどが一人一人の仕事のでき具合によって異なるという事だった。より仕事ができる人は外国で働いた方がお給料も良いそうだ。大野さん自身、日本よりも外国ではたっている方がインセンティブをより多くもらえてお給料も良いそうだ。この交流会を通して外国で働くことに関する事、外国の企業についてより知ることができて良い経験になった。

5. 加藤さんの講演

9月5日（火）にシンガポールにて、加藤さんの講演会が1時間半ほど行われた。この講演では事前に加藤さんが出版された「若者よ、アジアのウミガメとなれ」という題名の本をみんなが事前に読んでおり、その内容に沿った講演であった。私に加藤さんの本や講演どちらでも印象が強かった加藤さんの考えがある。それは「日本を外から揺さぶり、刺激を与える存在になりたい。」と考えられたことだ。加藤様は大学生の頃から商売をしたり、大学卒業1年目に会社が倒産して転職を経験したり、いろいろな経験や挫折があった中で、身の周り海外で起業している人が少ないにもかかわらず自分自身が海外に

行き、「日本を外から揺さぶり、刺激を与える存在になりたい。」と考え行動したそうだ。私はこのような考えに至り、行動に移すことができた加藤さんのことが本当に行動力のある素晴らしい人だと感じた。また、加藤さんは私たちに「アウトプット」を大事にした方が良いと伝えてくれた。今までインプットをより重要視していたが、これからはアウトプットも大切にしていこうと思う。私は加藤さんの演説を聞きこんなにも正直で前向き、さらに行動力まで持っている人が本当にいるのだなと思った。私のこれからの人生を変えたと言ってもは過言ではないくらい本当に意味のある良い演説だった。

6. おわりに

今回のプログラムを通じて様々な経験をし、考え方の変化やこれからの学生生活のモチベーションが向上した。自分の英語力の向上はもちろん、私は将来海外で働きたいので、そのために今しなければならぬことも明確になり、将来のビジョンを少しイメージする事ができた。ですが、世界は広く私はまだまだ未熟でもっといろいろな経験をするべきだとも感じた。自分から一歩踏み出し、新しいことに積極的に参加してアウトプットを大切にしながらこれからの学生生活を有意義なものにしたいと思う。そして将来、世界で活躍できるグローバルな人材になるために頑張りたいと思う。